

令和5年12月第6回真庭市議会定例会 市長諸報告 (令和5年12月5日)

皆様、おはようございます。本日ここに、令和5年12月議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様にはご参集いただき、誠にありがとうございます。

それでは、9月定例会での報告以降の真庭市政の主な動きを中心に申し上げます。

(平和と連帯の市民活動)

昨年2月に始まったロシアによるウクライナ領土の侵略、非人道的な空爆は今なお続き、ウクライナが厳しい領土回復の戦いを続けていることを忘れてはなりません。中東ではパレスチナ武装組織ハマスとイスラエルの軍事衝突により、双方一般市民が多数犠牲になり、現在凄惨な戦いに突入しています。このような中、世界では軍備増強に進み、戦争と核の脅威にさらされています。国内でも反撃能力の保有など防衛力の強化が当然視される傾向にあります。このような時こそ戦争放棄を規定した憲法を持つ我が国が果たす重要な役割があるのではないのでしょうか。

私は10月に開催された国内外の都市が連携して核兵器廃絶に向けた取組を進める「第11回平和首長会議国内加盟都市総会」に参加し、核兵器廃絶に向けた政府宛て要請書の提出に賛同しました。今月1日に核兵器禁止条約締結国会議が「核抑止力に頼る安全保障政策は核軍縮の進展を妨害している」との宣言を採択するなど、希望の灯りもあります。核兵器廃絶と恒久平和の実現を目指してまいりましょう。

また、真庭市民の有志が、寒い冬を迎えるウクライナ国民のことを思い、10月末に手編みのひざ掛け300枚を作り、ウクライナに送りました。真庭市として、当時の林外務大臣に支援を依頼するなどのお手伝いをしましたが、こうした小さな取組の積み重ねが連帯と共感を世界に発信し、平和を目指すうねりになっていきます。自分事として共に支援の輪を広げていきたいと思います。

(こどもはぐくみ応援プロジェクト)

市の最重要施策として取り組んでいる「こどもはぐくみ応援プロジェクト」の主な進捗状況について報告します。

まず出産・育児・生活支援ですが、「はぐくみサポーター派遣事業」では、多様なニーズに対応するため「サポーター養成講座」を8月と9月の2回開催し、必要な知識や技術を身に付けた15名の新たなサポーターが誕生しました。

経済的支援として、「市内就職者等への奨学金貸付とUターンする若者への返還免除」の制度を積極的にPRした結果、今年度7人の若者が真庭市に戻り就職しました。今後も子育て世代の地元就職につなげてまいります。

子育て環境整備については、子どもの遊びや見守る大人を増やす取組「子どもの居場所づくり支援事業」として、「川崎市こども夢パーク」を立ち上げた西野博之氏^{にしのひろゆき}をお招きしたフォーラムを今月23日に開催します。これに先立ち、パークの子どもたちの日常と成長を描いたドキュメンタリー映画を市内6か所で上映しており、子どもたちが幸せ

になり、大人も緩やかにつながれる、そんな「遊びの輪」を真庭市内にひろげてまいります。

また、自然環境を保全しつつ、市民や子育て世代が水辺の憩いの空間を確保するため、久世、勝山、湯原の3か所の河川公園を都市公園に位置づけるため、今定例会に、真庭市都市公園条例の改正を提案します。

「小中学校等のICT化推進事業」では、9月に運用開始した学校と保護者とのコミュニケーションアプリ「CoDMON」^{コドモン}をほぼ全ての保護者が登録し、これにより教員の始業前の準備にゆとりが生まれています。市内全校に自動応答電話も導入しました。このように、業務の効率化と教職員の働き方改革、保護者の利便性の向上を一体的に進めており、関係者から好評を得ています。今後は、このアプリをさらに活用し、こどもや保護者に役立つ情報を積極的に提供していきます。

「こども園等のICT化推進事業」では、前年度まで2園だった保育業務支援システムの導入が今年度7園まで完了しました。園業務のICT化は、保護者の利便性向上と保育業務の負担軽減につながっています。

子育て家族を優遇する市営住宅の入居についてですが、今年度創設した「18歳未満の子を3人以上扶養する多子世帯への優遇制度」を利用して1世帯の入居が決定しました。

このほか、地域全体で「みんなではぐくむ子育てのまち」への機運を醸成するため、9月補正予算で計上した「こどもはぐくみ応援事業」としてPR動画などを作成し、真庭いきいきテレビや市のYouTubeで広報、啓発に努めてまいります。また、こどもや子育てについて語る座談会やこどもをまんやかに楽しめるイベントの開催準備を進めています。

(経済対策)

先月29日、新たな経済対策など補正予算約13兆2千億円の国家予算が成立しました。国政レベルでの対策を前提に、真庭市として物価高騰の影響を受けた低所得世帯を支援するため、今定例会に住民税非課税世帯を対象に1世帯当たり7万円を支給する「低所得世帯物価高騰緊急支援給付金事業」の補正予算を提案します。年内の支給開始を目指しますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

なお、国は1人当たり4万円の定額減税を来年6月に実施するとしていますが、減税には自治体財源への影響や、自治体の事務処理の負担増などが懸念されます。減税の効果や赤字国債を財源とすることの是非などを含め、政府の財政運営について地方自治体もしっかり認識しつつ現実的な対応をする必要があると考えています。

なお、市民全体を対象とした物価高対策については、今後追加で講じるなど、状況に応じて的確、機敏な対応をしていく所存でありますので、議員各位におかれても、一層のご理解をよろしくお願いいたします。

それでは、市政の現状と最近の成果、今後の取組について、その主なものを報告いたします。

1つ目は、安全・安心で魅力的な地域づくりです。

(防災対策)

県が来月実施する地震対応訓練に本市が主体的に参加します。蒜山地区で震度 6 強を観測したという想定で、関係機関等と連携した対策本部訓練や、蒜山地区では住民避難訓練を実施し冬季の避難所運営の課題等を把握し、災害対応力の向上を図ってまいります。

また、自主防災組織の育成強化の一環として、災害時に地域住民の命を守る有効な活動事例などを学べる「防災講演会」を来月開催しますので、自主防災組織や消防団員をはじめ多くの市民のみなさん、是非参加してください。

(SDGs の推進)

株式会社ジャパントイムズが主催する「サステナブル・ジャパン・アワード 2023」で、本市が「優秀賞」を受賞しました。これまで官民一体となって取り組んできた地域資源の循環利用によって、社会、経済、環境問題の同時解決を目指した先駆者として全国的に高い評価を受けたものであり、授賞式の様子は、国内だけでなく海外にも発信されました。

また、精力的にサステナブルに取り組み、熱心な環境保護活動家でもある俳優のレオナルド・ディカプリオが資本参加し展開するフランスのシャンパーニュブランド「テルモン TELMONT」と本市がコラボレーションを開始し、先月 7 日、グリーンブルヒルゼン「風の葉」で発表会を行いました。本市がコラボする初の自治体として選ばれたことは、先ほどの受賞と同様に大変誇らしく嬉しく思います。こうした連携を活かして、真庭の地域価値を一層向上させることを目指します。

2 月開催予定の今年度の SDGs 円卓会議は、これまでの成果を確認し、発展させるため、「これまでの真庭、これからの真庭の未来を語ろう」をテーマにします。従来以上の多数の市民、事業者、特に未来を担う若者に参加を呼びかけます。

(「まにこいん」 キャッシュレス・市民ポイント)

今年度始めに 2,800 名だったユーザー数は、先月末時点で 12,441 人となりました。利用者拡大に向けて、今年 7 月に市内全世帯に配布した「暮らし応援クーポン券」によるキャンペーンをはじめ、9 月の海山マルシェ参加者に向けた「まにこいんポイント」付与や利用体験ブースの出張出展、10 月に開始した「まにわくん」「チョイソコ」での取扱い、先月から開始した銀行口座からのチャージサービスと 10,000 ユーザー突破を記念した利用額の 20%還元キャンペーンなど、さまざまな取組により今年度の目標ユーザー数の達成率は 9 割を越えました。

年度内の開始を目指している市民の歩数増加等の健康行動に対する「まにこいんポイント」の付与など、引き続きあらゆるシーンにおいて利便性を高め、利用拡大を図り、効果の実を上げてまいります。

(真庭なりわい塾)

先月終了した中和地区の実践講座では、塾生が地域の方々から四季折々の伝統食を教わり、また、来年度開始する「里山留学」受入に活用する古民家の地域の方と協働したリノベーションや、先月開催された中和紅葉祭に「へいところ」など蒜山の山菜を出店するなど、実践や交流を通じ、農山村での暮らしや生き方を肌で感じ、生き方を考え学ぶ

機会となっています。今後とも、真庭の豊かな自然を生かした新たなライフスタイルの発信の場として継続してまいります。

(交流定住の取組)

交流定住センターでは、真庭のイベント情報を集めた「ManiCole」^{マニコレ}や移住関連情報を発信する「Coco真庭」^{ココマニフ}など、WEBサイトを活用した精力的な情報発信を行っており、10月末時点のアクセス数は昨年同時期と比べて約1万4千件上回っています。移住相談件数は86件で、うち4世帯6名の移住につながりました。引き続き丁寧な情報発信に努め、関係人口の増加につなげてまいります。

(ふるさと納税の状況)

ふるさと納税では、10月からの国のルール厳格化に伴う駆け込み寄付の増加もありますが、協賛企業が新たに7社増え、返礼品も、ぶどう・桃・梨・ワインなど約130品が追加登録されたこともあり、10月末時点の寄付件数と寄付額は、昨年同時期に比べて件数は7割増の約1万8千件、金額は5割増の約2億5千万円となっています。引き続き創意工夫をしながら、市内企業と連携し真庭の魅力をより多くの人にPRし、真庭ファンの増加を目指してまいります。

(県道バイパス工事・災害復旧事業)

県が平成25年度に着手した真庭市旦土地^{だんど}内の県道落合建部線のバイパス工事ですが、「新旦土大橋」^{しんだんど}は9月から、「新旦土小橋」は10月から順次通行可能となりました。これに伴い旧道区間を市道へ移管するため、本定例会に市道認定の議案を提案します。

今年8月に発生した台風7号豪雨で被災した市道、林道、農地のうち、国の補助対象となる復旧工事は、先月に国の査定が完了したところであり、早期復旧に向け順次発注してまいります。

(消防蒜山分署庁舎の整備)

今年度着手した消防蒜山分署庁舎の設計業務が完了しましたので、本定例会に庁舎新築工事の補正予算を提案し、来年度中の完成を目指します。

(振興局の取組)

蒜山地域では、9月に開催した「海山マルシェ」に合わせて蒜山高原自然広場「風のパレットHIRUZEN」が全面オープンし、子どもたちの声が響く場所へと生まれ変わりました。10月に開催した「蒜山高原マラソン全国大会」ではクロスカントリーコースに活用し、走り終えた多くのランナーからも好評を得ました。今後、クロスカントリー大会の定着を図りながら蒜山の魅力を高めてまいります。

また、先月3日に蒜山自然再生協議会により劣化が進む「天谷湿原」^{てんだに}の自然再生作業が行われ、参加者により歩道整備や木道の設置、樹木の除伐などが行われました。湿原と隣接する草原「鳩が原」とを結ぶ観察歩道の整備といった将来的な保全活動も検討されています。

北房地域では、昨年度開催した市民有志による「北房ほたる公園について話す会」の意見も反映させ、10月に「北房ほたる公園整備方針」を策定しました。「ホテルの生態が学べ、ホテルを通して人と自然が共生できる場」、「子どもから大人まで誰もが集い交流できる癒やしの空間」の2つを理念に、多くの方に親しまれる公園整備を進めてまい

ります。また、先月、「北房地域振興計画」実現に向けて活動する市民組織「北房未来づくりネットワーク」のメンバーが、なりわい塾の公開講座を塾生と受講し、地域づくりや空き家対策など地域のあり方について学びました。北房の素晴らしい未来づくりに繋がることを期待します。

落合地域では、10月に農村 RMO 吉縁起村がスマートフォン決済による無人のスマートストアを開店し、地域住民の生活の利便性向上や、中山間地域に適合した次世代型の多店舗経営モデルを目指しています。また、今年の新米収穫を終えた真庭プリンセスサリー生産振興協議会は、レシピ開発や成分分析など、美作大学の学生 15 名が参加した連携事業を開始し、今後の販売促進に取り組んでおり、こうした地域の積極的な取組を支援してまいります。

久世地域では、余野小学校運営協議会とシェアハウスプロジェクト「よすが」が協力し、9月に「余野里山フィールド子どもキャンプ」を開催しました。余野小学校の児童 6 名を含む市内外から 10 名の参加があり、この取組を来年度から実施する「まにわ里山留学」につなげてまいります。

また、今月 2 日に旧遷喬尋常小学校で「なつかしの学校給食」が市民団体「まにワッショイ」の協力により開催され、給食や音楽の授業などで賑わいました。

勝山地域では、先月末までに、勝山町並み保存地区やその周辺地区内の歴史的な家屋 14 棟を実地調査し、今月 7 日にその結果報告会を開催します。関係者が、「勝山町並み保存地区」の多様な町家建築や生活文化の価値を深めることにより、町並み保存の機運を高め、これに行政も協力し、この貴重な文化遺産が 100 年先まで受け継がれていくようにしなければなりません。その一環として、真庭市は、勝山藩の宿であった「郷宿」を活用し、「勝山らしさ」を活かした観光誘客の増加につなげることを積極的に検討してまいります。

美甘地域では、10月に美甘文化協会による「美甘文化祭」と、美甘地域づくり委員会による「美甘ふるさとまつり」を同時開催し、文化祭では美甘小学校講堂の文化発表の映像を美甘振興局でも楽しめる工夫がされるなど、新たなアイデアも取り入れられています。こうした行事は住民の生きがいづくりでもあり、引き続き地域住民の主体的な活動を支援してまいります。

湯原地域では、社地区で 10 月に行われた伝統的な「秋の例大祭」に、岡山商科大学や岡山大学の留学生など 21 名の学生が神輿の担ぎ手などとして参加し、古くからの地域文化を学びました。また、空き家を改修し、住民の集いの場や体験型観光、交流イベントなどに活用する拠点施設「神戸の館」が完成し、10 月から本格的な運用が始まっています。

温泉地では、湯本温泉館や足温泉館の利用客数がコロナ禍前の水準に戻ってきており、温泉旅館の宿泊者数もコロナ禍前の水準の 8 割程度まで回復してきています。今後のインバウンド需要なども取り込み、温泉街が再び賑わいを取り戻せるよう、市も支援してまいります。

2つ目は、力強い循環型の地域経済づくりです。

(台湾観光客の誘致推進)

台湾へのプロモーション活動として10月12日から14日の3日間、私も台湾に渡り、岡山空港便を持つタイガーエアー本社を訪問し、台湾人旅行者に選ばれる観光素材について意見交換しました。また、現地ホテルの特設会場で、旅行会社やメディア関係者、インフルエンサーなど75名を迎えて観光説明会を行いました。蒜山をはじめとする観光素材と真庭産の酒とジャージー製品のマリアージュを楽しむ真庭の「食」の魅力をPRしたところ、出席者から旅行商品の開発を検討する意向が出てきました。この様子は即日、現地メディア関係者等によってSNSで取り上げられ、真庭の観光WEBサイトのアクセス数も急上昇し、台湾客の手応えを感じています。引き続き市の認知度を向上させ、インバウンド誘客に積極的に取り組んでまいります。

(産業人材確保の取組)

地域資源を活用した新産業創出や、都市部人材の確保を目指し、昨年度から取り組んでいる地域の未来を創るビジネス創出プログラム「Cultivate the future maniwa カルチベートザフューチャーマニワ 2023」に、市内から9社、都市部から18社の申込みがあり、都市部の企業による真庭への注目が高まりを見せています。今年度は勝山高校と真庭高校の生徒8名がインターン生として事業アイデアやビジネスモデル作成のワークショップに参加するなど、産官学連携による地域経済の活性化に若者の発想も取り入れながら取り組んでいます。

(真庭産木材需要拡大の推進等)

8月の協定締結で真庭木材事業協同組合及びオムロンソーシアルソリューションズ株式会社と取組をはじめた広葉樹の家具利用については、家具メーカーとの協議や製品に合った広葉樹の確保、製材方法に関する市内事業者との検討をはじめ、来年度の本格的な実施に向けた課題の洗い出しを行っているところです。

また、来年5月26日に開催される「第74回全国植樹祭」の気運醸成のため、9月の「風のパレット」オープニングイベントにあわせた記念植樹を実施し、10月に実施した木育イベントや学校行事でも積極的にPRしています。今後も市内の関係団体等と協力しながら、森林・緑に対する市民の理解を深めてまいります。

(森林・林業 dX の推進)

「森林・林業 dX 推進事業」については、皆伐再生林を進める「経済林」と、針広混交 しんこうこんこう 林化する「環境林」など、森林の状況に応じたゾーニングを真庭森林組合と連携して進めており、真庭市森林整備計画の見直しに反映させるとともに、エリアを絞った地区座談会の開催や、森林所有者の意見も取り入れつつ効果的な施業を推進してまいります。

また、昨年度から実施している森林所有者の意向調査に基づいた森林所有再編の取組については、10ha程度の大きな単位で、所有者と事業者のマッチングが進んでいます。

(久世校地の利活用)

庁内関係部局や岡山大学、NTT西日本などが参加してこれまで3回の検討会議を行い、ゾーンや機能の検討を進めながら基本方針策定に向けた施設や周辺整備に関する調査を行っていますが、同地の活用を想定し、久世地内の保育園機能を集約した新たな「認定こども園」の整備に向けた検討会を年度内に立ち上げる準備を進めております。また、隣接する国道などからのアクセス整備についても県の関係部局へ協力を依頼している

ところでは、今後も、関係事業者や市民の皆様の声を幅広くお聞きしながら、久世校地が未来創造の拠点施設となるよう、丁寧に取り組を進めてまいります。

(循環型農業の推進とバイオ液肥の活用)

来年秋の稼働を目指す「バイオ液肥濃縮施設」工事は、先月末で約3割の進捗です。効率的なごみ処理と循環型農業を推進し、市が主体となってバイオ液肥への再資源化から液肥の運搬散布までを行うため、本定例会に施設の運転管理、運搬散布業務に係る2年間の債務負担行為を提案します。

(農業の課題解決に向けた農業戦略調査・分析)

9月定例会で補正予算計上した「真庭市みどりの食料システムビジョン」実現に向けた「農業戦略調査・分析事業」は、市内の農業関連団体や農業公社のほか NTT 西日本、パソナグループなど民間事業者にも参画いただいたタスクフォースを10月から開始しました。本市の農畜産業における課題抽出と整理、課題解決に向けた議論を進め、持続可能な農業の実現とサステナブルなブランド力の向上に取り組んでまいります。

(農産物ブランド推進事業)

真庭産農産物のブランド力向上のため、先月の2日間、JAと協力し、ぶどう生産部会の生産者、普及指導センター、市の3者で大阪府内を訪問し、真庭産ぶどうのPRと、市場関係者、スーパー、大阪市内のホテルシェフとの勉強会を行いました。今後も、真庭産ぶどうの品質の良さはもちろん、真庭の気候を活かした出荷体制の確立や、栽培から販売まで真庭の特徴を活かしたブランド化を推進してまいります。

3つ目は、持続可能な真庭の環境づくりです。

(公共交通の利便性の向上)

市内交通については、10月から実証運行を開始した「チョイソコマにわ」の登録者は先月末時点で467人であり、利用状況は10月が延べ282人、先月が延べ371人となっています。また、スポンサーとして先月末時点で21社の協力をいただいております。現在、利用者を主な対象にアンケート調査を行っており、皆様の声をお聞きしながら利用者の増加を図ってまいります。

鉄道関連ですが、何としても姫新線を存続させなければなりません。先月3日に「JR姫新線マルシェ」を昨年に引き続き開催し、多くの家族連れなどにご利用いただきました。先月29日には、姫新線へのICOCA導入による利便性向上等を沿線自治体の首長や県とともにJR西日本に要望しています。地方放送会社の株主になったように、「マイルール」として姫新線を維持するため、JR西日本の株主になり経営参加していく方針でありますので、議員各位、市民皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

また、来年度は久世駅及び中国勝山駅の姫新線開業100周年です。県、沿線自治体、議員連盟、JR西日本、商工会、団体など幅広く連携して、姫新線利用増大に向けて取り組んでいこうではありませんか。

(ゼロカーボンシティの実現)

脱炭素社会に向けた市民会議を精力的に開催し、脱炭素に向けて市民や事業者が取り組むため必要なことについて意見をお聞きしました。これらの意見を反映させた事業を

展開し、脱炭素をより一層推進してまいります。

また、地球温暖化対策の普及啓発動画が完成し、小学生向けの動画は環境学習等で活用しています。この動画は先月、国の「環境教育・ESD 実践動画 100 選」にも選定され、環境省のウェブサイトや市のYouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください。今後も、市民の意識、関心を高める取組を進めてまいります。

(生ごみ等の資源化プロジェクト・焼却施設の集約化)

全国初となる液肥の濃縮まで含めた生ごみ等資源化の実現を長年にわたり進め、来年の秋に本格稼働できるに至りました。この事業の目指す地域内に資源を循環させる事による環境及び農業への貢献、総費用の軽減の成否は、生ごみを含めた「資源となるごみの分別」に掛かっています。来月から、自分事として取り組んでいただけるよう市民の皆様を対象に分別方法や出し方を説明する「出前説明会」を開催します。自治会をはじめ、ご希望に応じた細やかな単位で開催してまいりますので、この場からも市民の皆様にご理解ご協力を呼びかけるものであります。

なお、生ごみの分別を徹底すれば、実質的に市民のごみ処理負担費を軽減できる新たなごみ処理制度の構築に向けた、一般廃棄物処理手数料の改定も検討してまいります。

4つ目は、夢ある子育て、「ひと」づくりと豊かな文化づくりです。

「こどもはぐくみ応援プロジェクト」の関係については、冒頭で述べましたので、そのほかの事業について申し上げます。

(縁結び推進委員・婚活イベント)

今年度、縁結び推進委員による独身男女を対象とした交流イベントをこれまで3回開催し、41人の参加があり、その結果、8組のカップルが誕生しました。今後も引き続き「出会いの場」を多く作るなど、縁結び活動を活発に展開します。

(スポーツの推進)

「馬術競技」では、勝山高校蒜山校地の馬術部生徒が「全日本高等学校馬術競技大会」で団体戦3位、「全日本高等学校馬術選手権大会」で個人戦優勝と大躍進を続けています。

次に、さまざまなユニバーサルスポーツが体験できる「ユニバーサルスポーツフェスティバル」を10月に、パラスポーツの振興を支える人材を増やすため「初級パラスポーツ指導員養成講習会」を先月と今月開催し、共生社会につながるユニバーサルスポーツの普及に努めています。スポーツ推進員による指導のほか、市民主催で開催された、障がいのある人も無い人もみんながごちゃまぜで楽しめる「ないまぜマルシェ」でもパラスポーツ体験が行われています。

民間では、10月に蒜山と新庄村をフィールドとしたトレイルラン大会「フォレストレイル蒜山・新庄2023」が開催され、協賛企業と参加ランナーが一体となった森林保全活動の取組が高い評価を受け、今年の「第11回スポーツ振興賞」のスポーツ庁長官賞や「おかやまSDGsアワード2023」の「特に優良な取組み」に選ばれるなど、スポーツを通じたSDGsの推進や地域振興にもつながっています。

(文化振興・森の芸術祭)

9月から先月にかけて「おかやま県民文化祭 文化がまちにある！ in まにわ2023」が

市内各所で開催され、豊かなくらしのためには芸術文化に触れる機会が大切であると改めて感じています。「勝山文化往来館ひしお」で先月 23 日から今月 24 日まで、戦前から戦後にかけて活躍した勝山地区出身の洋画家、難波香久三^{なんばかくぞう}氏の作品の大半をご遺族から寄贈いただき、それを記念して「難波香久三展」を開催しています。

来年秋に、岡山県北で国際芸術祭「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が開催され、真庭市も主たる会場のひとつになります。この芸術祭を一過性に終わらせることなく、地域の活性化にもつなげるように、幅広い関係者が参加する実行委員会を立ち上げて地域資源を掘り起こし、積極的に取り組んでまいります。

(こどもまんなか応援サポーターの取組)

「こどもまんなか応援サポーター宣言」の一環として、庁舎に来訪する妊娠中の方や子ども連れの方の負担軽減のため、本庁舎と全ての振興局に「子育て応援駐車場」を今年度中に設置し、子育てに優しいまちづくりに努めてまいります。

(学校運営協議会の推進)

市内全校に設置した学校運営協議会では、学校と地域が主体的に協議を行い、地域主導で交流活動を企画・実施するなど、地域と学校の協働が進んでいますが、今月 18 日には先行事例を学ぶ「真庭市学校運営協議会研修会」を開催します。各協議会の伴走支援を行うとともに、引き続き活動の一層の充実を図ってまいります。

(高校魅力化)

先月 27 日、本市は和歌山大学と包括連携協定を締結しました。これを契機として「教育」「観光」分野で市内高校と大学との活発な交流や観光行政の発展に資するよう、真庭観光局とも連携し協定の実績を作っていきます。

また、地域住民と蒜山校地生徒の交流機能と、寮の機能を併せ持つ「学習交流センター」は、今月下旬に実施設計が完了します。来年度の着工、7 年度春の開設の見通しで、蒜山校地の入学者増加を目指します。

なお、残念ながら真庭高校では今年度で久世校地が廃止されますが、市内に高校を存続させるため、これまで以上に頑張るとともに、県に対して責任をもって県立高校をしっかりと運営するように、特に教員配置の充実などを何度も強く要望しています。

(図書館の取組)

中央図書館では、地域郷土資料アーカイブ事業として、地域おこし協力隊とともに閉校になった小中学校を中心に校歌を調査しており、先月末時点で 21 校 31 曲を収集し、市民の方が校歌を歌っている様子を図書館の公式ユーチューブで配信しています。この取組は 9 月 23 日の山陽新聞でも紹介され、広く発信されました。

また、図書館システムを今月更新し、「公共図書館」ではスマートフォンで図書の貸し借りが可能になり利便性が向上したほか、「学校図書館」も蔵書の図書館システムへの登録が完了し、図書資料を学校間で共同利用できる環境が整い、学校での読書環境が向上しています。今後も、従来の枠にとらわれない魅力的な図書館を作ることを目指します。

(荒木山西塚古墳発掘調査)

今年度も発掘調査を先月から 3 月末まで行います。市民も参画した民・学・官が連携する発掘調査は珍しく、9 月には NHK の解説番組で紹介されるなど、全国的にも注目

を集めています。真庭の古代史の一端を明らかにするとともに、文化遺産を活用した地域づくりへとつなげてまいります。

5つ目は、行政・地域経営（市民目線、カイカク、カイゼン）です。

(基幹システム標準化・共通化)

令和3年の「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」の制定により、行政事務の内20の基幹業務を国が示す基準に適合したシステムに移行する必要があり、今年度からシステムの全面的な見直し準備に着手するため、その必要経費について本定例会に補正予算を提案します。

この移行経費が国の財源交付額を大幅に超過し、また、本市を含め令和7年度末までの期限内の移行が困難な団体が生じること、ランニングコストが大幅に増加する恐れなどの課題が全国的に指摘されるようになりました。このため、私は全国市長会と全国町村会が緊急要望することに尽力するとともに、直接関係省庁への働きかけを行い、河野デジタル庁所管大臣にWEBでの要望も行いました。今回の政府補正予算で交付のための基金は大幅増額されているものの、先行きが不明なことが多く、市長として情報公社理事長として苦慮しています。標準化作業が、住民サービスの低下を招くことなく、安全・確実に移行できるよう、尽力してまいります。

(人材確保(職員採用))

市職員の採用については、高校や大学、専門学校などへの積極的なリクルート活動を実施し、前期・後期試験あわせて延べ約100名の受験申し込みがありました。また、今年度は、試験の集約化等にも取り組み、早急な合格発表を行うとともに前倒し採用を実施します。今後も引き続き、これからの真庭を支える職員として、何ごとにも積極的に取り組み、意欲を持ってチャレンジできる人材の確保を図ってまいります。

以上、市政運営の状況について、主なものをご報告しました。なお、今定例会では、報告1件、条例や補正予算議案など13件、総数14件のご審議をお願い申し上げます。

また、諸議案の内容につきましては、日程に沿い順次説明しますが、慎重ご審議のうえ、適切にご議決を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶と業務の報告とさせていただきます。